

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490200104		
法人名	社会福祉法人 一燈園		
事業所名	グループホーム大学通り一燈園 2階		
所在地	大分県別府市上人南10組		
自己評価作成日	令和 3 年12 月 17日	評価結果市町村受理日	令和4年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和 4年 1月 17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・新型コロナ感染症の流行により、これまでの活動が粛清され感染予防を第一にした生活へと一変した事で、利用者様及びご家族様には不便な思いや、不安を感じる事が多くあったと思います。その中で優先順位を常に意識しグループホームらしい活動を心掛けて来ました。感染予防の徹底による清潔で安心・安全な生活環境の提供、四季の感じられるレクリエーションや、残存能力を活かした生活レクの継続、一人一人の利用者様の個性に沿ったコミュニケーションに努め他者との繋がりによる安堵感や、リラックス出来る場所作り、家庭的な雰囲気大切にしています。利用者様を中心に、ご家族様と職員が密に繋がりを持つ事、又、医療との連携により健康の維持管理に努める等、多方面より協力を得ながら利用者様を支えて行けるよう努力しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・徹底した感染症対策がなされており利用者が安心して暮らすことが出来る。  
 ・利用者や家族に対して満足の行く支援がなされているか常に業務を振り返っている。  
 ・主治医等の医療や法人の他施設との連携で健康に不安がある場合や重度化した場合希望する支援を受けることが出来て安心である。  
 ・毎食施設内で調理されて料理する音や匂いなどで穏やかな気分になれる。  
 ・別府の地の利を活かしてお風呂は温泉であり、心も体も芯から温まる事が出来る。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員の目の届く位置に掲示し朝礼で唱和し行動指針に沿った目標をそれぞれの職員が持ち自己研鑽する事で、ご利用者への支援へと繋げる努力をしている。	一燈園で良かったと感じてもらえるように日々努力している。理念について毎月研修が行われており個人目標を掲げ理念の実現につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染症の流行により感染症予防の観点から外部との接触はほぼできない状態にあるが消毒液の要望のあるご家族や地域住民に対し無料配布を実施している。	コロナ禍で地域との交流ができていないが、民生委員には電話をしたり、たよりを郵送するなどしてつながりは継続している。希望する住民には消毒液を無料で配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ感染症の感染症予防の観点から外部との接触ができない為、ほぼ貢献できていない状態。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染症対応により文章での開催となっており、市役所、民生委員、地域包括支援センター、ご家族の方々よりのご意見、ご要望を伺い活動の参考としている。	書面開催となっており委員に資料を郵送し意見をもらっている。四季を感じられるレクをしたらどうかとカリスクの報告の仕方、服薬チェックの仕方を工夫したらどうかなどの意見が出され、みんなで検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の文書での開催と意見、要望を伺い報告書の提出により事業所の活動を積極的に伝える事が出来ている。	推進会議の資料を郵送している。何かあれば電話をして問い合わせをしている。市からは研修の案内のメールをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」という法人の目標に添って職員一人一人が意識している。2か月に1回の委員会や年2回の内部研修にて身体拘束についての正しい知識の周知と実践に取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに努めているが、利用者の状態により家族の了解のもと、センサーマットを使用する場合もある。ちょっと待ってなどと行動を抑制することを言った時は、その場で職員に注意している。帰宅願望の人には一緒に歩くなどの対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市町村主催の研修(オンライン)参加や、委員会の開催、内部研修を通じて高齢者虐待に関する理解を深め随時行動の振り返りや虐待防止の強化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年2回の権利擁護の内部研修を行いすべての職員に伝え学ぶ機会を持っている。成年後見制度を活用している利用者がいるため職員は身近に学ぶことが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容を十分に時間をかけて説明している。家族の質問にも丁寧に対応している。契約締結後も十分な理解が得られるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じ家族代表に意見をお聞きしている。又ミニ便りの発行により活動の情報提供を密に行い、面会や電話連絡により常にご家族の意見に耳を傾けグループホームの運営に繋げて行けるよう努力している。	利用者とは話しやすい雰囲気づくりをしており、家族には面会時や電話で要望などを聞いている。なるべく下肢筋力が落ちないようにしてほしいとの意見に、廊下を歩く等体を動かす様な支援を心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からコミュニケーションを多くとり、些細な出来事についても情報を共有し、毎月のケース会議で意見を出しあっている。又、提案についても自由に発言できる雰囲気がある。	普段会話する中で聞いたり、月1回の会議で意見をじっくり聞いている。物品の置き方や書類の書き方などの提案がある。利用者の状態により勤務時間を変えるなどその都度職員の意見により変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を導入し3か月毎に①目標チャレンジの達成者②マナー・チームワーク③チャレンジ新たな取り組みでの評価を職員同士で推薦。表彰と報酬が得られる事で、各自のやりがいや意欲の向上に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部経営企画室が担当して、新人・フォローアップ・ステップアップ・リーダー研修を計画し、受講している。又、外部の研修にもオンライン参加し、ケース会議で研修報告の機会を持ち全職員に周知を図ることで、レベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ感染対応により同業者との交流はほぼ出来ていないが電話による情報交換等には対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートをはじめ、関係書類を作成するときに希望を聞いている。また、ご家族や以前利用していた事業者からも情報を収集し信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人から聞き取りが困難な状況である方も、ご家族への相談や、話し合いを行うことで信頼を得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じたサービス機関への紹介や地域包括支援センターへの紹介を行っている。緊急性がある場合は関係機関との連携・調整し、柔軟な対応に努め生命の安全に留意している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を見つけ喜びに繋げるよう取り組んでいる。役割を持ち自分の持てる力を発揮できる場面を設定し、達成感や意欲の向上に繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な出来事でも電話連絡にて、報・連・相をしっかり行い、ご家族の要望・意見を聞くと共に、協力の依頼も行っている。また、リスクに対しての説明も行い、理解して頂くように努めている。ミニ便りにて近況報告も随時行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染者数推移状況の把握に努めコロナ感染予防対策を取りながら状況に合わせた面会方法を検討、実施している。希望があれば電話での交流も支援している。	知人に電話したり近所の知り合いとベランダ越しに話をしたりしている。ハガキに文章を書いて家族や兄弟に出している。思い出話を懐かしんだり、これまで良く行っていた所に車中だけのドライブに出掛けたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の特徴や個性、思いや出来ることを見極めながら、良い関係が維持できるように工夫している。必要に応じ助言や声掛け、見守りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者のご家族に対しても、季節ごとのハガキを送ったり、連絡を取り合うなど関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや気持ちを大切に、日々の生活の中に取り入れ支援している。ご家族による情報収集で終わらせず一人一人がその人らしく暮らしていく為の現時点での課題を明らかにしている。	日々支援する中でサインとして出したり、行動や表情で感じたり、家族との会話などをヒントに利用者の思いを知るように努めている。耳が聞こえない利用者には、じっくり寄り添って気持ちを把握しようとしている。新しい情報は記録に残し職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションの中やご家族様より情報を得てこれまでの生活習慣を大切にしている。懐かしい話題等を盛り込み会話を楽しむことで新たな情報を見逃さないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートやアセスメントシートを作成し、随時見直ししながら、ご家族、職員で本人の全体像を把握し共通の理解としている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族からの要望・意見・職員の日々の気付きを共有しカンファレンスで意見交換を行い利用者がその人らしい生活を過ごせるようにプラン作成に活かしている。モニタリングを毎日行い評価も行っている。	毎日モニタリングをしている。家族からの意見を聞いて半年に1回や状態が変わればその都度計画の見直しが行われている。自分で出来る事は出来るだけしてもらうようにプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録にて共通認識している。又、日頃の関わりの中で、気づきを多く出し合うことにより個々の特徴や状態にあう支援の方法を工夫し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて通院や代理での買い物等の支援を行っている。四季折々の行事を楽しんで頂けるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の流行により感染予防のため地域との交流は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診をして頂いている。又、歯科往診の要請や皮膚科受診を行っている。往診のDr. には事前に情報提供し日常の様子を報告したり、薬局の方にも相談し意見を頂いている。	入居時にかかりつけ医を選ぶことができる。これまでのかかりつけ医の定期的な訪問診療がある。訪問歯科も利用している。病院へ受診する場合は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスの看護師や訪問看護師に健康について医療面からの助言や相談を行い対応してもらっている。週1回の訪問看護と緊急時、夜間24時間いつでも電話相談が行えるように連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員も同行。情報提供を行っている。入院中は電話連絡にて様子を伺い快復に向けて家族や医師と退院計画の相談をするなどして連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期指針を作成し全職員で施設の方針を共有出来るよう意識統一を行っている。また家族やご本人に終末期ケアの希望などの確認を行い、状況の変化に合わせて話し合いを持っている。2階3階の合同でターミナルケアについて研修を行っている。	入居時に終末期の指針を家族に説明し同意を得ている。重度化した場合家族と話しあっており、医療を伴わない終末期の看取りを行っている。緊急時対応などの研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時フローチャートを掲示、職員全員に配布をし日頃から急変時対応に備えている。内部研修や訓練を行い、適切に医療との連携ができるよう実践の向上にも努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練をご利用者と共に行っている。各ご利用者に防災袋を準備し事務所には水や備蓄食品も保管している。又、グループホームだけでなく全館合同で年に一度の消防防災訓練を行っている。	毎月火災想定避難訓練を行っている。初期消火や通報、ベランダへの利用者誘導など、フローチャートに沿って訓練を実施している。備蓄は各階に3日分ある。市のシェイクアウト訓練にも参加しテーブルの下にもぐるなど利用者も参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や生活歴等よりご本人が大切にしている事や生活スタイルを尊重している。利用者が安心する言葉かけやマナーに気を配り、プライバシー保護、個人情報の取り扱いに気配りを行っている。	トイレ介助ではカーテンを閉めたり外で待つなどプライバシーに配慮している。ミーティング時などで個人が特定されないように気を付けている。方言や愛称で呼ばない、目を見て話す等に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者独自のサインや表情などから様子を把握し気持ちを反映出来るようにその方にあった声かけを行い、意欲や充足感を持って頂けるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに合わせた暮らしを大切にしている。料理の手伝い、裁縫、カラオケ等、利用者の趣味や特技を活かした活動を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し好みのヘアスタイルを実現できるように支援している。好きな服を自分たちで選び、更衣時や外出時におしゃれ出来るよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が同席しメニューの説明をしたりしながら楽しく食事をして頂けるようにしている。季節ごとの行事食や誕生日等の祝い膳の提供、個別レクでは本人の希望のファストフード店のドライブスルーを利用したりしている。	毎食ご飯と汁物は施設内で作り、料理する音や匂いで自宅にいる雰囲気を感じることが出来る。おやつレクと一緒に料理する事を楽しんでいる。おしぼりを配ったりテーブルを拭いたりみんなで食事の楽しい雰囲気づくりをしている。ドライブスルーを利用しマックやピザを注文している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎に食事量や水分量を確認している。摂取量が少ない方、嚥下状態の悪い方にはSTや主治医と相談し形状等一人一人に合った内容でアプローチを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きや義歯洗浄の声かけを行っている。口腔内の清潔保持が出来るように義歯の消毒やその方にあった口腔ケアを実施している。また、訪問歯科やSTからアドバイスをもらい実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しその方にあわせた排泄の声掛けや一部介助を行っている。失敗があっても本人が傷つくことの無い様な支援を心がけている。	トイレは各部屋に設置されている。排泄のパターンを把握しており、時間を見て声掛けしトイレへ誘導している。夜間のみオムツの方がいるが睡眠を妨げないように留意しながらパットを交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳とヨーグルトを提供し排便がスムーズに行える様支援している。オリーブオイルや繊維質の多い野菜の摂取等、個々に応じた予防の取組みも行っている。医療関係者との連携も随時大切にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望やペースを大切に午前と午後に分け入浴を楽しんでもらっている。又、一人で入れる方は夜間の入浴も行っている。体調不良で入浴出来ない時は随時全身清拭を行っている。	週2回の入浴である。温泉であり利用者は入浴を楽しんでいる。入浴を拒否する時は無理強いせず、時間を変えたり声掛けの方法を変えたりして気持ち良く入浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて就寝したり休息を取っている。夕食後は困らんとし趣味やテレビ、読書等を楽しくゆっくり過ごして安眠に繋がる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を掲示、臨時薬や定時薬の処方の変更になった際は追記し様子観察、状態変化の確認を行っている。服薬前に職員間で4回の確認・飲み込みまでチェックし把握するよう共通認識をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、工作、調理、園芸、家事手伝い等個々の特徴にあった役割を見つけ生き甲斐ある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍であり自由に外出が出来なくなっているが、月1回程度のドライブは実施している。またフロア一内を散歩気分で行ったり窓の外の景色を見て四季を感じて頂けるような声かけを意識している。	個別に車中ではあるがドライブに出かけている。別府市内や田ノ浦、日出などに出かけ景色を楽しんでいる。以前は施設の周りを散歩していたがコロナ禍で中止となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いを預かり、ご家族が対応できない場合、日用雑貨等は職員が購入している。希望のある利用者には家族の了承を得て財布と小銭を管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族や知人とゆっくり話せる様希望の際は支援している。また定期的に葉書を出して返事を頂いたり大切な関係が維持できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者はリビングに集まるのが好きな方が多く、テレビ鑑賞や会話、生活レクを楽しむ屋食前に、ラジオ体操、嚙下体操を行っている。フロア全体に壁面ディスプレイを施し季節感を感じて頂けるようにしている。	四季を感じられるような貼り絵などを、利用者と一緒に作成して壁に飾っている。コロナ対策で除菌や加湿などを行い、安心安全な施設づくりに心掛けている。利用者それぞれに居心地の良い場所に座りくつろいでいる。席は固定せず、何人かで談笑するなど自然体で過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファやテーブルを設置し、一人または数名で楽しめる空間を作っている。そこでそれぞれのペースで自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れた家具や家族の写真を用意し、ご家族の要望や個々に合わせた居室づくりを行っている。ベランダで花を育てたり、自ら衣替えを行ったりする利用者もあり自宅と同じように過ごすことが出来ている。	使い慣れたテーブルやソファ、家具、テレビなどを持ち込み写真などを飾り、落ち着いた部屋作りとなっている。好きな観葉植物を部屋に置き、空気清浄機を設置するなど快適な暮らしが出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口には表札を掛け、自分で作った作品を掲示し、自分の部屋だと分かるようにしている。ご利用者の混乱が生じた時は職員間で話し合い解決策を出し合い対応している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490200104		
法人名	社会福祉法人 一燈園		
事業所名	グループホーム大学通り一燈園 3階		
所在地	大分県別府市上人南10組		
自己評価作成日	令和3年12月17日	評価結果市町村受理日	令和4年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和4年1月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても地域住民の一員として地域貢献できたり、社会参加が出来るよう、利用者様個々の得意分野で役割を担ってもらうことで、認知症の進行を緩やかにしており、出来ることを継続し行ってもらう事で、さらに出来ることを発見する事で「その人らしい生活」「より在宅での生活に近づけた暮らし」の実現を図っています。  
 新型コロナウイルスの流行により、これまでの活動が粛清され感染予防を第一にした生活へと一変した事で、利用者様及びご家族様には不便な思いや、不安を感じる事が多くあったと思います。その中での優先順位を常に意識しグループホームらしい活動を心掛けて来ました。感染予防の徹底による清潔で安心・安全な生活環境の提供、四季の感じられるレクリエーションや、残存能力を活かした生活レクの継続、一人一人の利用者様の個性に沿ったコミュニケーションに努め他者との繋がりによる安堵感や、リラックス出来る場所作り、家庭的な雰囲気大切にしています。利用者様を中心に、ご家族様と職員が密に繋がりを持つ事、又、医療との連携により健康の維持管理に努める等、多方面より協力を得ながら利用者様を支えて行けるよう努力しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム 大学通り一燈園2階に記載】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念、行動指針はスタッフルームの目に触れやすい場所に掲示し、又毎朝朝礼時に唱和し理念を共有する事により日々の行動へと繋がっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染症の流行により感染症予防の観点から外部との接触はほぼできない状態にあるが消毒液の要望のあるご家族や地域住民に対し無料配布を実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により現在地域との交流は自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議は文章による情報提供等による開催となっている。その中で文章による意見は貴重な意見でありサービス向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の文章での開催と意見要望を伺い報告書の提出により事業所の活動を積極的に伝える事が出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員一人ひとりが認識しており2か月に1回の委員会や年2回の内部研修を行う事で再確認し身体拘束のないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や組織全体の研修を通じて高齢者虐待防止に関する理解を深め虐待防止に取り組んでいる。又、虐待防止委員会では虐待とは何かを考え虐待の早期発見や防止の強化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている利用者様がいる為、内部研修等で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容を十分説明し理解納得して頂けるよう努めている。ご家族の疑問等にも丁寧に対応し十分な理解が得られるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通し家族代表による意見、面会や、電話連絡により常にご家族の意見や要望に耳を傾けグループホームの運営に反映できるよう心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われるケース会議や日々の関わりにおいて利用者の事だけではなく運営に関する意見や提案も各職員から聞き必要に応じて上司に報告し施設運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告書を活用し職員の要望や勤務状況の把握を行っている。また、必要に応じて一人ひとりと面接を行い、職員がやりがいや向上心を持って働けるよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の経営企画室が担当して職員一人ひとりの勤務年数に見合った各種研修が行われており全員が受講している。外部研修(現在はリモートによる研修)にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染対策により同業者との交流はほぼ出来ていないが電話等による情報交換は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係を築く為心身の状況や思いを把握する事に努め不安要素や疑問に思う事を解消できるようにし安心感を得られるような関係作りを心かけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者に対する家族の思いや要望等に耳を傾け十分に話し合いながらサービス内容の方向性を共に確認する事で家族との信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者やご家族様の状況や要望をもとに必要な支援を見極めサービス機関の情報提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴を把握し、出来る事を支援する事で生きがいや楽しみ、役割を持てるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ミニ便りや面会時、カンファレンスの際には日頃の状況を細かく伝え、コミュニケーションをしっかりとるようにしている。また状態に変化のあった際にはお互いに相談し、今後の対応等を決めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により接触制限を設けているが、感染者数推移状況の把握に努め面会制限が緩和された際には感染予防対策を取りながら状況に合わせた面会方法(オンライン面会等)を検討し実施している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に気を配り、人間関係を把握し座る席などの配慮やお互いの仲を取り持つ等、共同生活の中でお互いが協力し支え合えるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族からの相談には親身になり対応しており、経過フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常生活の中での言動や行動、家族との会話の中から感じ取った思いや、意向を記録やフェイスシートに残すことにより、職員間で情報を共有し、その人らしく暮らせるように支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族、知人の話を聞くだけでなく普段の利用者との会話等からも好きなことや趣味を知り全職員で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身の状態や生活リズムを理解する為に日頃から観察やコミュニケーションをしっかりとっている。また処遇の統一が図れるように、全職員で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はアセスメント、モニタリングを繰り返し行って、職員の意見や気づきを取り入れながら、随時状態変化に合わせて見直しを行っている。ケアカンファレンスで、家族の意見や要望も取り入れて現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃より利用者の変化を見逃さず、普段と違う行動や言動、体調の変化があれば、その場に居なかった職員が見ても理解出来るよう、時系列に沿って記録を行い、情報を共有することでケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況、要望に応じて通院代行、代理での買い物等の支援を行っている。又、重度化されている利用者にはその人に合った食事形態で安全に食す事が出来るよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により現在地域との交流は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人やご家族が希望するかかりつけ医での医療を受けられるよう支援している。状態変化が見られた際は速やかに受診出来る様、家族と連携を取り、付き添いを職員が代行するなどの支援も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急な体調変化の際はデイサービスの看護師やかかりつけ医の看護師と連携し対応している。また週に1度訪問看護師の来園時に日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応をしてもらい利用者の体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には普段の生活状況等の情報を医療機関に提供し、利用者の混乱を最小限に抑える配慮を行っている。また1ヶ月を超える入院となると施設を退去となる場合がある為主治医に治療状況を確認しながら退院計画の相談を行うなどの連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス開始時に重度化、終末期についての話し合いを関係者全員で持ち、文書化し家族にも説明している。状態変化の時はその都度状態に合った対応が出来るよう随時話し合いを行い、又、ターミナルケアについての研修も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを再度見直し内部研修や訓練を行う事で緊急、急変時や事故発生時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1度利用者と共に避難訓練を行っている。各利用者に防災袋を準備し事務所には水や備蓄食品も保管している。又、グループホームだけではなく全館合同で年に一度の消防防災訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しその人に合った生活スタイルを重視している。言葉かけは誇りやプライバシーを大切にされたケアの実践に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いや希望を伝えやすい環境を整えるよう常に気配りしている。自分の考えを伝える事が困難な利用者へも表情等で意志をくみ取る事の出来るよう本人の意志を確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を基本にその日の体調や気分にあわせて、出来る限り一人ひとりその人の希望を取り入れ、ご自分のペースで楽しみを持って生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを把握し、外出時には利用者と一緒に洋服を選び、季節にあったおしゃれを本人が楽しめるよう支援している。理美容は訪問美容で定期的に整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好や食事形態を把握し楽しみながら和やかな雰囲気ですべてが出来るよう支援している。季節ごとの行事食や誕生日等の祝い膳の提供、毎月行われるおやつレクでは昔を思い出しながら職員と一緒に準備を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量や水分量をチェックし、記録を行っている。食事は利用者の嚥下や咀嚼力に応じて刻み、極小刻み等にして提供している。水分摂取量の少ない利用者には好みの飲料を購入し勧めることで摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の口腔状態や出来ること、出来ないことに合わせた、声掛け、見守り、介助を行っている。また定期的に洗浄剤による義歯の洗浄を行い口腔の清潔に努めている。また、訪問歯科やSTからアドバイスをもらい実践している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンや行動による排泄サインを察知しトイレ誘導を行っている。失敗をした時には利用者の自尊心を傷つけないような声かけ対応に配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳や朝食にヨーグルトをつける等日々の食事に工夫をしている。オリーブオイルや繊維質の多い野菜の摂取等、個々に応じた予防の取り組みも行っている。医療関係者との連携も随時大切にしている。散歩や廊下歩行等を個々に行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や持病に配慮しながら、利用者個々の好みの湯温やペースに合わせて入浴を楽しんで頂いている。入浴する時間もなるべく、それぞれの希望に合わせて入ってもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレクや行事を充実させ、活動的な生活を支援することで夜間の安眠につながるよう努めている。また、日中もその日の体調や気分に合わせて休息を取ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し、誰が何の薬を飲んでいるのか全職員把握している。また変化する体調に合わせ、主治医と連携を取りながら薬の調整を行い、臨時薬や薬の変更が出た際には、何の薬か記録し、職員間での詳細共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者1人1人の生活歴を踏まえ、趣味や家事手伝い等の役割を作り、ドライブ・外食・買い物等の楽しみ事の支援を個別に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり自由に外出が出来なくなっているが、月1回程度のドライブは実施している。またフロア内を散歩気分で歩行したり窓の外の景色を見て四季を感じて頂けるような声かけを意識し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いを預かり、ご家族が対応できない場合、日用雑貨等は職員が購入している。希望のある利用者には家族の了承を得て財布と小銭を管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がご家族や友人に手紙が書ける様支援している。電話を掛けたい利用者には職員が間に入って相手とスムーズに話ができるよう支援している。コロナ禍以降は面会制限を設けるようになった代替として、タブレット等を活用したテレビ電話支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い環境が維持できるよう冷暖房の温度調整や加湿器の調整をこまめに行い、換気にも気をつけている。共用空間には利用者の作品を展示したり、行事や日常生活の写真を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファを置いて誰もがゆっくりくつろいでいただく場所を作ったり、仲の良い利用者同士で会話しながら楽しく過ごせるような席の配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れた家具を持参して頂き、好きな物や興味のある物を置き、居心地の良い空間作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人や家族と話し合いながら家具の配置を決めたり、好きな花やパズル等を飾り、安全で充実した生活が送れるよう、配慮している。		